



スナック・
デジタル空間・
プラットフォーム

2023/11/20

東京大学大学院法学政治学研究科教授

宍戸 常寿

なぜスナック？



宍戸常寿「スナック・風適法・憲法」

「スナックとは様々な主体が様々な事情で出入りし、その周辺の主体がその存在に関心を持たざるを得ない「場」である。そして、この「場」について、諸々の自由・利益をどのように適切に調整してその機能を正しく発揮させるかという問題は、実は法制度にとってはいささか手強い部類に属する。」

「実は、このような規制の困難な「場」であるという意味で、法制度の観点からみれば、スナックはTwitter、Facebook等のSNSに近い。」

前史としてのインターネットと情報法

- 新聞、雑誌、放送のメディアの発達
- IT、ICTの進展
- 自律、協調、分散
- 民法、刑法、知的財産法、消費者法、各種の行政法規
- 民間部門によるインターネット・ガバナンス

デジタル化と憲法議論

デジタル化

プライバシー侵害
ひぼう中傷

デジタル格差

AIによる
選挙・世論の操作

政府の権力拡大

立憲主義にとって
リスクとチャンス

デジタル権利宣言

デジタル社会における個人の尊重
デジタル化によるエンパワーメントと
社会参加の拡大

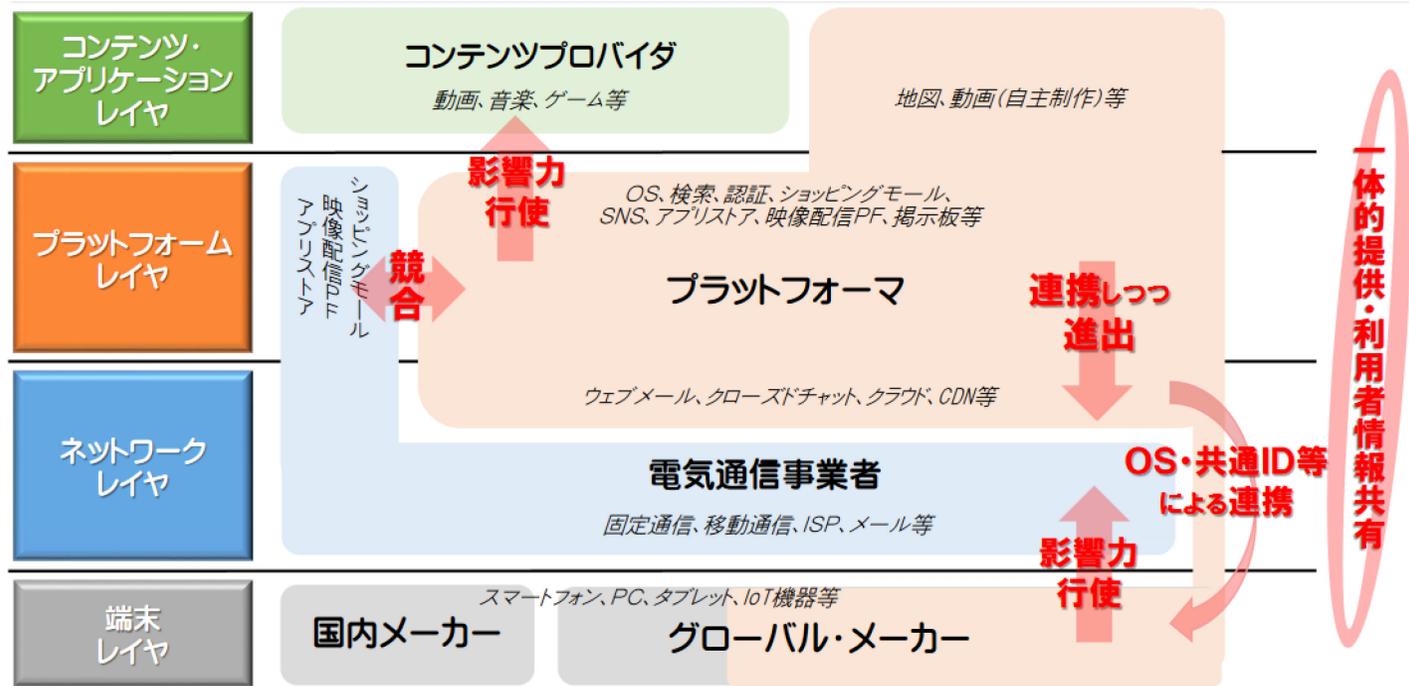
デジタル化を踏まえた国と地方の
役割分担・協力関係の再構築

立法・司法のデジタル化

G7 広島サミット首脳コミュニケ

- 我々は、急速な技術革新が社会と経済を強化してきた一方で、新しいデジタル技術の国際的なガバナンスが必ずしも追いついていないことを認識する。…人工知能（AI）、メタバースなどの没入型技術、量子情報科学技術、その他の新興技術などの分野において、デジタル経済のガバナンスは、我々が共有する民主的価値に沿って更新し続けられるべきである。これらは、公正性、説明責任、透明性、安全性、オンラインでのハラスメント、ヘイト虐待からの保護、プライバシー及び人権の尊重、基本的自由、そして個人データの保護を含む。我々は、安全性及びセキュリティが優先されることや、各プラットフォームがそのプラットフォーム上で子どもへの性的搾取や虐待の脅威に対処することを確保し、オンラインでの安全とプライバシーに対する子どもの権利を堅持しながら、テクノロジーの責任あるイノベーションと実装を推進するため、テクノロジー企業及び他の関連するステークホルダーと協働する。我々は引き続き、民主主義のために技術を進歩させるための方法について議論し、新興技術とその社会実装について協力し、OECDの技術に関するグローバルフォーラムを含む関連するフォーラムを通じて、インターネット・ガバナンスを含むデジタル課題に関する包括的なマルチステークホルダー間の対話を期待する。
- 我々は、民主主義が平和、繁栄、平等及び持続可能な開発を促進するための最も揺るぎない手段であるとの我々の共通の信念を再確認する。我々は、オンラインでのハラスメントや虐待、インターネットの遮断や分断からの保護を含む、メディアの自由及びオンラインの自由を支援し、民主的制度に対する信頼を損ない、国際社会における意見の対立を招く偽情報を含む外国からの情報操作及び干渉に対処することにより、情報環境を保護するという我々のコミットメントを再確認する。

デジタル空間とプラットフォーム



成原慧・九州大学准教授

- 情報流通の媒介者
- データの集積者
- アーキテクチャの設計者

- グローバルに激しい競争、短期間のうちに新技術の開発実装、サービスの導入廃止を決定
→ 消費者・利用企業、各国政府にとっても全体像の把握が困難
- 利用者の行動や関心が先回りされ方向付けられる
- デジタル空間の秩序を形成

問題の諸相

- デジタルプラットフォームと「新しい中世」？
 - 中世の教会、神聖ローマ帝国に相当する存在？
- イノベーションの担い手と独占
 - 生成AIとプラットフォーム
- 主権国家を前提とする憲法とプラットフォーム
 - 国家 + 個人 v s プラットフォーム？
 - 国家 v s プラットフォーム + 個人？
 - 国家 + プラットフォーム v s 個人？

デジタル空間における情報流通の健全性確保の在り方に関する検討会

「これまでの主な取組」と「今後の主な取組／課題」

【1】プラットフォーム事業者による自主的な取組

【これまでの主な取組】

- ▶ プラットフォーム事業者等による自主的な取組（偽情報の削除等）と、総務省（プラットフォームサービスに関する研究会）によるモニタリング・検証評価

【今後の主な取組／課題】

- ▶ プラットフォーム事業者等による削除等に関する透明性・アカウントビリティ確保
- ▶ 生成AI等の新たなステークホルダーとの連携・協力関係の構築

【2】AI・国際戦略

【これまでの主な取組】

- ▶ 国内のAI事業者向け新ガイドラインや広島AIプロセスによる国際的な指針・行動規範の検討、G7各国の偽情報対策取組集の共有・公表

【今後の主な取組／課題】

- ▶ AIの誤用・濫用を通じた巧妙な偽情報による新たなリスクへの対応
- ▶ G7/OECDに加え、ASEAN等の国際的な連携・協力関係の構築

デジタル空間における情報流通の健全性確保の在り方に関する総合的な検討が必要に

【3】ICTリテラシーの向上

【これまでの主な取組】

- ▶ ICT活用のためのリテラシー向上に関するロードマップ（目指すべきゴール像、短期・中長期の課題整理等）を策定

【今後の主な取組／課題】

- ▶ 生成AIや偽・誤情報の拡大等を踏まえたコンテンツ開発・リーチ方法の整理
- ▶ 教える人材の育成の在り方検討、関係者の連携・協力関係の構築

【4】安心・安全なメタバースの実現

【これまでの主な取組】

- ▶ メタバース等の拡大に伴い新たな課題が顕在化、G7においても民主的なメタバースの実現の必要性が提起

【今後の主な取組／課題】

- ▶ 民主的価値に基づく原則や信頼性・利便性の向上を図る観点からの論点を検討
- ▶ 国際的なメタバースの議論にも貢献

ご清聴ありがとうございました。